

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 167 号	2015年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月26日（火）駐車場の刈った草を処分しました。
「シュワリングネイチャーの会」松田会長さんがほとんど刈ってくださいました。
駐車場のポータブルトイレ（岡村会員より譲渡のもの）内部の洋式便座を設置。洗浄方式を改善し器具（ジョロ）を設置済み・施肥済み・手洗い手水器を設置済みです。
- 5月29日（金）田んぼの細碎（最終仕上げ耕）は外部にトラクター依頼し、済みました。
- 5月30日（土）田んぼの全周囲の草刈りをしました。
- 6月2日（火）注水開始し、3日に外部に依頼して代掻きをしました。
代掻きの後、水管理が容易になるよう今井相談役・西村敏子会員・原田マと3名で整地しました。
- 6月5日（金）稲苗を夕方JAグリーン（厚東）に受取りに行きました。
夕方5時より縄張りや祭壇づくりを行いました。
- 6月6日（土）稲作体験の田植えを行いました。田植えのやり方を説明し、豊作を祈願し玉串を奉納して、田んぼに入って苗を植えていきました。参加者は、つくる会23名、親子観察隊22名（親10名＋子12名）、二俣瀬子ども会35名（親16名＋子19名）、二俣瀬小学校校長・センター長・公民館長の3名、エジプト・ベトナムの留学生を含めた山大工学部学生9名の総勢92名でした。10時半には終了し、ひぎ癒しとして豚汁を皆で食べました。お疲れ様でした。秋の稲刈りが楽しみです。
- 6月17日（水）駐車場のトイレ周辺の草刈りを実施しました。
田んぼ稲作状況は田植え後の活着状況も正常で補植も済みました。雑草（特にコナギ類）の発芽と生育抑制の為に米ぬかを70kg（山口嘉川農協・JA宇部二俣瀬・天重酒店・丸喜）貰い受け）を散布しました。猪防御の為に準備として電柵の柵設置・バッテリー小屋製作済み、バッテリー充電中・後日に線の貼り付けと通電を開始します。
- 6月20日（土）維持管理作業として、観察路および草原の草刈りを行いました。草刈りをした部分は、歩き易くなっています。なお参加者は、会員13名です。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者

—

◎行 事

—7月5日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）

—7月18日（土）維持管理（駐車場の草刈・昭和山遊ロード清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

—今月はありません。

4. 会員の声【我が家にツバメがくる Part-2】（原田 満洲夫 記）

毎日「チィ チュイー」と大鳴きしうるさいが非常に気になる。先月来た当初は、夫婦2羽で来ていたが3日目あたりからツバメの伴侶がどこかに行ってしまった

1羽で入ったり出たり。5月末まで伴侶を探し回る状態？が続いていたが何とか見つけ出し、又2羽となった。更に出入りが頻繁になって「チィ チュイー」「チィ チュイー」の合唱が激しくなった。それを部屋内から眺めながら「ああでもない・こうでもない」と言っ

て審議している老夫婦がいる。のんびりとした一日が過ぎる。
若いツバメ夫婦の出入りは頻繁だが、なかなか巣作りが進まない。「チィ チュイー」の合唱はひょっとして夫婦喧嘩の鳴き声であろうか？話が、なかなかまとまらず巣作りが進まない！ とか老婆心ながら心配し、又一日がゆっくり過ぎる。

“ツバメ来て 会話が增えし 老夫婦”

※ 雀「チュンチュン」鳩「ポッポ」雉「ケンケン」と鳴き声を表すが、さてツバメは？



6月20日活動日の時 ツバメの鳴き声を表す日本語を問い合わせたところ

- ① 「チュ・チュ・チュー」
 - ② 俗語 「お前はうまいものを食って、ワシらはウジを喰ってハラがグジューと言った」
 - ③ 俗語 「土喰って、虫喰ってシブーイ」
- と啼くそうです。 参考まで

5. 親子自然観察隊 「田植え体験」(中本 亜矢子 記)

梅雨時にもかかわらず、今年の田植え体験はいいお天気に恵まれた。参加者も親子自然観察隊や二俣瀬子ども会をはじめ、山口大学の留学生やつくる会メンバーなど、総勢92名の参加でとてもにぎやかに行われた。

田植え体験はいろんな団体が行なっているが、うちの田植え体験は、里山の文化を伝えることも意識した活動になっているのが特徴だ。

現地に行くと、田植えをする田の前に、地元の会員が祭壇を作っておられた。竹4本で枠組みを作り、それに手作りのしめ縄をかざり、玉串や大根などが準備されていた。子供たちの代表が玉串を奉納し、豊作祈願をし、お神酒で田を清めてから田植えを開始。

地元会員による田植え歌も披露された。原田さんからおききした歌詞は以下の通りである。

♪～そろた 出そろた 早苗がそろた／植えよ 植えましょ みんなのために／米は宝だ
宝の草を／植えりゃ黄金の米になる～♪

ちなみに、戦争中は「みんなのために」の部分が、「お国のために」と歌われていたとのエピソードもおききし、田植え歌も時代の影響を受けることを学んだ。

田植えの後は、膝癒し(泥落とし)を行い、会員手作りの豚汁をみんなで食べて、田植えの苦労をねぎらった。



田植えの説明



豊作祈願



田んぼに入って田植え



膝癒しで豚汁を頂く

親子自然観察隊の親子の感想

★厚東慶次郎

はじめての田植えでした。最初に泥水に足を入れて苗を植えるときはわくわくしました。植え方のコツを教えてもらいながら最後まで頑張りました。お米になるのが楽しみです。

★厚東さんの親

大人になったこの年齢で初めての田植え体験でした。自然に触れ、ひとつひとつの作業も貴重な体験、秋の収穫を思うと苗の刺し植えも気合いが入り、お米一粒の重みも思い知ることができました。有難うございました。

★野田怜

今年も田植えに参加出来て良かったです。豚汁とおにぎりが美味しかったです。

★野田さんの親

雨も降らず田植え日和で清々しい日でした。田植え後の稲がなびく風も空もきれいでした。立派に育ちますように～。

★小川勝登

楽しかったです。疲れたけど、またやってみたいと思います。

★小川さんの親

親子とも、初めての田植え体験でした。泥水は、思っていたより気持ちよく、楽しんで作業をすることが出来ました。それにしても、この手作業を、昔は家族単位で行っていたんですね。お米を、今まで以上に感謝していただかなければという思いです。大変有意義な時間を過ごせました。地元の皆さま、体験隊の方々、有難うございました

★永富花音さんの親

私は水田に入るのは幼少以来で、グニユとした感触を懐かしく思いました。娘は「苗を植えるのが楽しかった」「蛙を取るのが楽しかった」と言っていました。今回の田植えをとうして、「感謝して食べようね」と米作りの大変さ・大切さを親子で話しました。

★戸成晃大

用事があって最後までいられなかったけど、友達や大学生の人と話したりふざけたりしながら田植えをして楽しかったです。それと帰り道で、管先生に会えてとてもうれしかったです。また、虫の話しや観察を一緒にしたいです。次の観察隊が楽しみです。

★下川拓実

玉ぐし奉納を代表してやりました。今年も楽しかったです。

★下川航平

田植えは足がはまって大変でした。最後までやってつらかったです。

★下川和代（親）

子どもがやめなくなるのを励ましながら植えました。たくさんの参加がありにぎやかで楽しい田植えでした。

★月本直秀

初めての田植え体験は、きついなとおもいましたが、楽しかったです。稲刈りをして、おもちをついて食べるのが楽しみです。

★月本さんの母

人生初の田植えでしたが、手作業の田植えは思っていたより大変でした。昔の人達が苦勞して作ったお米を、大切に大切にしたのが改めてよくわかりました。体験出来て良かったです。ありがとうございました。

山大工学部の学生の感想

★lee hieu

「今回、田植えを体験させていただき、ありがとうございました。ベトナムでは種を適当に蒔いた後の20日間、密粗を修正しますが、日本では稲を植えるというギャップが分かり、とても面白く感じました」

★シャヒラ

It was awesome day for me. I like this type of activities. I enjoined it sooooo much. I want to participate in traditional activities of Japan again. Thank you very much.

★谷口百恵

貴重な体験を用意していただいて本当にありがとうございました！！

地域の方や子どもたちと触れ合えて良い経験になりました。留学生にも“よき日本の文化”を直に体験できる機会を作れて本当に良かったです！また参加します(*^*)

★加藤圭介

今日は、貴重な体験をさせてもらいありがとうございました！俺たちは勿論のこと、留学生の2人にも俺ら同世代以外の世代の人とも触れ合える機会ができて本当に良い事だと思います！また次回も楽しみです！

★江口靖尚

初めて田植えをしました。ただ苗を植えるだけでなく色々な方との交流も出来てよかったです。次の活動も率先して参加します！

★岡本光輔

晴空の下、豊かな自然のなかで幅広い年代と交流できたことを嬉しく思います。小学生と大学生がカエルと一緒に捕まえてたのが印象的でした。これからも留学生と参加させてもらうことで刺激的な時間を過ごしたいです。

★児玉聖治

自分達の普段食べているごはんは、多くの人の大変な苦勞があつてこそあるのだと再確認することができました。今後もごはんは最後の一粒まで大切に食べようと思います。

★平林千春

田植えにもってこいの天候になり、田植えの体験を通して観察隊の子どもたちだけでなく、子ども会の人たちとも交流が持てました。膝癒しでは美味しい豚汁をいただきました。準備してくださった事務局のみなさまありがとうございます。美味しいお米が収穫できたらな、と思います。

★阿部真希子

最初は田んぼに入ることを嫌がっていた子供たちも徐々に慣れていき、楽しそうに田植えをしていました。小さな苗が雨風に耐え、たったの数カ月で大きく育つように子供たちもすく

すくと育って行くのだろうと思いました。収穫が今から楽しみです。

★長谷川峻也

今年で3度目の参加になるが、毎回楽しく参加させていただいています。今でこそ田植え機を使って比較的楽に田植えができるがこうやって従来の方法で田植えを子供達に教え、昔を学んだ上で今を知ってほしいと感じた。

感想文〔 6月度 田植えについて 〕(観察隊 隊長 管 哲郎 記)

私事、病欠で1年間お休みいたしました。新年度が始まり、近頃では、おかげさまでようやく諸行事に参加できるほどに回復いたしてまいりました。4月の「結隊式」と5月の「野鳥の観察」には入院中と退院直後のことでもあり参加できませんでしたが、これからは一日も早く病状を回復させ、皆さんと一緒に行事を進めてゆきたいと思っています。

田植えも雨上がりの晴天に恵まれ、最高の条件が整い楽しく終了いたしました。これも皆さんの日ごろの行いがよろしかったのだと思いますし、年々田植えのスピードが速くなり短時間で終了したようです、嬉しい限りです。

隊長は田植えの日もまだ早く起きられず、やむなく遅刻いたしました。今年度初参加で、大勢の出席者に囲まれて大変喜ばしく思いました。泥んこになりながらの楽しい笑顔に、ますます元気をいただきました、ありがとうございました。

特別なゲストとして山口大学の学生さん及び外国よりの留学生の参加が可能になりました。出席数は毎回増減いたしますが、少人数でも楽しく行事ができればと思ってお誘いしています。隊員の皆様、よろしくお願いいたします。

6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(30) アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys

ヤンマ科 *Aeshnidae* rambur <アオヤンマ属> *Aeschnophlebia* Selys

腹部全体が丸型でずん胴型をしたやや大型のヤンマです。体色は黄緑色や青緑色をしており、胸と腹部背面には太くて黒いスジがあり同定は易しいのですが、皆さんの目に留まることが難しいのが問題です。成虫は4月～8月ごろまで見られます、主にアシやマコモ、ガマなどの繁茂する富栄養型または腐食栄養型の池沼や水郷地帯の溝川に生息します。

未熟個体は近くの草むらに静止することが多く、運が良ければ見つけられます。成熟した個体の♂はせまいヨシ原の間を上手にすり抜けて♀を探したり、♀はヨシ群の中の水際で産卵しますので、なかなか見つけにくいヤンマです。

秋穂の干拓地や大きなため池、阿知須ゴルフ場の大きなため池周辺、宇部市厚南の干拓地やヨシの多く生育するため池などにもいますが、探すのは難しいかもしれません。筆者もさらに良い写真を目指して本種をもう少し探したいのですが、出会える機会が少なく撮影には難航しています。特にメスに会える機会が少ないのが頭痛の種です。



アオヤンマ ♂



アオヤンマ ♀

7. 会よりの連絡事項

- 1) ビオトープの入口に立ててある看板が見えにくくなったので新しく作り変えました。ビオトープの案内板であり初めて現地に来られた方にビオトープの全体が解る様にして設置されているものです。二俣瀬の市民センターの入口にも同じ看板が設置されていますがこの看板は2年前に取り換えています。いずれも宇部市環境政策課の方々にお願いをして実現したものです。施工は看板専門店の山創にて実工されました。(副会長 田村記)

8. 編集後記

今月は、ぐずついた日が多いように感じます。梅雨入りしたのだから当然だろうといわれればその通りなのですが、平年ならば梅雨入り直後は雨が少ないのです。昨日、今日と雨がしとしとと降り続いているため、日課のウォーキングを諦め、犬の散歩もできません。しかし雨が多いと、私は安心します。

六月に入り晴れた日が続くと、湿地帯の水温は急上昇します。湿地帯の水深が、浅いからです。水位が低くなるとなおさらです。私が気付いただけでも、今月に入り二回、水位が異常に低下していました。このような日に湿地帯に入ると、場所によってはお湯のよう水になっています。植物への影響はそれほど無いでしょうが、動物（メダカ、水生昆虫等）は大変です。この状態がさらに続き、干上がったならば、メダカなどは絶滅してしまいます。

私が度々ビオトープに通っている理由の一つとして、用水路の落ち葉取りがあります。降雨後一週間以上たつと用水路の流量が少なり、池への流出口が落ち葉で詰まってしまいます。こうなると池から湿地帯への流入水もなくなり、水位が低下するのです。雨が多いと、用水路の水量が多く流速も早いので、落ち葉も堆積しません。また、池への流出量も多くなり、必然的に湿地帯への水の流入も多くなります。雨が多いと、湿地帯の水位低下の心配も少なくなるのです。

今なんとかしたいのは、湿地帯からの水の流出です。水位が低下した状態でも、流出堰（水車の傍）から水が漏れます。池と比較すると、3～4倍の速さで湿地帯の水位は低下します。堰の周辺に粘土などを詰めてみましたが、効果がありません。水の流入が止まると、3日程度で湿地帯は干上がってしまうのです。何か良い方策はないのでしょうか。

（ 前田 歳朗 記 ）